

[017]九州大学産学連携センター年報 : 17

<https://doi.org/10.15017/20272>

出版情報 : 九州大学産学連携センター年報. 17, 2011-10-01. 九州大学産学連携センター
バージョン :
権利関係 :



4. デザイン総合部門事業

4.1 デザイン総合部門の目標

産学連携センター各部門共通の目標として、先端芸術科学技術分野および新しい学際的融合分野において高度な産業技術シーズの創出を行うと共に、産業化を狙った産学連携プロジェクト研究を企画・推進する。その中で、特にデザイン総合部門では、「技術の人間化」を目指す芸術工学分野、芸術科学技術シーズの産業化に資するデザイン分野、人間と自然科学の融合分野における技術シーズの発掘および産官学連携コーディネート、デザインとテクノロジーを融合した産学連携プロジェクト研究の企画・推進、更にアカデミックな立場からの地域デザイン産業界との協調や支援等を行うことを目標としている。

4.2 デザイン総合部門事業および研究・企画とその推進

4.2.1 概要

九州大学知的財産本部とも共同し、デザイン・芸術分野における産学連携・共同研究の推進、キャンパス・インキュベーション活動等を総合的に推進する。

また、「空間・もの・音・画像・ネットワーク」といった分野を扱う芸術工学研究院とも協調して、「人間科学・視聴覚メディアコミュニケーション・環境遺産・コンテンツクリエーション・デザインビジネス戦略」といった総合的ジャンルにおける、デザインおよび芸術工学独自の新しい産学共同研究を推進する。

自然科学系および人文科学系という、これまで必ずしも産学連携・学々連携が行われなかった2つの分野における、固有のテクノロジーとデザインの融合に基づく、横断形プロジェクトを企画および推進する。更に「産学連携学」の充実とデザイン学との融合・発展に取り組む。

4.2.2 平成22年度の活動実績

○産学連携を推進するための各種セミナー等の主催

第142回 KASTEC セミナー「生活空間の音環境をデザインする」

日 時 平成22年7月2日(金) 16時40分～18時10分

場 所 九州大学大橋キャンパス 5号館1階 512教室

講 師 音環境デザインコーディネーター／横浜国立大学 VBL 講師 船場ひさお 氏

世話人 産学連携センター副センター長 芸術工学研究院教授 岩宮眞一郎 教授

第144回 KASTEC セミナー「立体映像の最新技術と今後の動向」

日 時 平成22年11月12日(金) 15時00分～16時30分

場 所 九州大学大橋キャンパス 産学連携センターデザイン総合部門3階セミナー室

講 師 情報通信研究機構 ユニバーサルメディア研究センター 専攻研究員 妹尾孝憲 氏

世話人 産学連携センター副センター長 芸術工学研究院教授 岩宮眞一郎 教授

第148回 KASTEC セミナー「電子書籍の出現と出版の未来」

日 時 平成23年 1 月31日(月) 13:30~16:30

場 所 九州大学大橋キャンパス 産学連携センターデザイン総合部門 5 号館 1 階511教室

講 師 産学連携センター 客員教授/大日本印刷株式会社常務取締役 秋重邦和 氏
大日本印刷(株) 常務取締役 北島元治 氏

大日本印刷(株) 情報コミュニケーション研究開発センター長 福田祐一郎 氏

の開催をはじめとして、デザイン知財の取得やデザイン関連の共同研究推進の検討会などを、産学連携センター客員教授を招いて実施し、学内の研究者や学生はもちろんのこと、学外からも多くのデザイン関係者に参加聴講してもらい、研究成果の社会還元ができた。また、九州大学日本芸術文化資料庫事業等、デザイン・芸術に関わる知的財産への認知・理解を高める活動を重ね、関連する客員教授等との連携活動も継続した。

○地域デザイン関連産業との協調および支援

- ・第2回九州アジアデザイン連携協議会、第6～第10回事業連携会を開催し、福岡市の創造的デザイン都市への協力、留学生のデザイン関連産業へのインターン支援の方策、国際地域ベンチマーク協議会の活動への協力、釜山デザインセンターとの交流についての討議を行った。
- ・地域連携のオープンセミナーとして、九州アジアデザイン連携協議、NPO 法人 FUKUOKA デザインリーグ、福岡アジアデザイン交流協会の主催で「第7回アジアデザインビジネスセミナー」を2月に実施し、この中で中国都市デザインの現状、中国におけるデザインビジネスの現状と課題などの講演を行い、芸工院と地域デザイナーとの連携を深めることができた(参加者32名)。
- ・特許庁、九州経済産業局、九州知的財産戦略協議会、九州大学、福岡市の主催、九州大学感性融合デザインセンター、NPO 法人 FUKUOKA デザインリーグの協力のもと「知的財産連続セミナー in 福岡」を、1月と2月に二回に分けて開催し、合計4テーマについて集中的に実施した。内容は、1月は「知的財産推進計画2011に向けてコンテンツ強化を核とした成長戦略の推進について」「地域資源を活かしたブランド戦略～イカール星人来襲！プロデュース」(参加者35名)、2月は「商標制度の概要と効果的な活用方法について」「アサヒビールのブランド戦略～商品ブランドの育て方～」(参加者42名)の講義形式で行い好評であった。
- ・日本サウンドスケープ協会2010例会として「サウンドデザインとその方向性」のシンポジウムを大橋キャンパスで実施し、地域の音環境デザインの取り組みに貢献した。

○部門の研究施設設備による活動

デザインおよび芸術系独自の産学連携共同研究の推進(九州大学日本芸術文化資料庫事業等、デザイン総合部門・大橋キャンパス)につとめた。テクノロジーとデザインの融合に基づく横断型プロジェクトが、学内の様々な部署で推進されている。デザイン総合部門としては、「先導的デジタルコンテンツ創生ユニット」(平成21年度助成

終了／22年度事業終了）への研究施設設備の提供を始め、可能な限りの支援を行った。また、「ホールマネジメントエンジニア育成ユニット」（平成20年度～24年度事業）への研究施設設備の提供を継続した。

○共同研究事業による活動

また九州大学日本芸術文化資料庫事業を中心に、デザイン・芸術に関わる知的財産への認知・理解を高める活動を重ね、九州国立博物館・京都国立博物館・東京国立博物館、および、幾つかの民間美術館博物館（五島美術館、MOA 美術館、箱根美術館、等）と協働しつつ、着実に共同研究作業を積み重ねるとともに、この事業に関連する客員教授等との連携活動も継続した。また科学研究費補助金等への研究費獲得努力も継続しつつ、平成20年度「科学研究費・研究成果公開促進費データベース（課題番号208002）」に採択された分の継続研究資料作成を、12人の共同研究者と共に精力的に継続した。

○関連学会活動

産学連携学会活動を支援し、平成22年6月24日より第8回大会を函館公立大学にて開催するとともに、産学連携学会誌「産学連携学」第7巻1・2号を刊行した。また名誉会長の称号を受けて、長期の観点から学会活動に貢献した。その一環として、九州大学産学連携センター・デザイン総合部門が中心となり、産学連携・知的財産関係の研究成果を社会に還元するため、産学連携学会・認定講習第二期第5～6回（各地域にて実施／第1～4講座）を、内閣官房知財推進本部・文部科学省・経済産業省等と連携しつつ、次のように実施した。

- ・第二期第5回 平成22年5月16日 静岡大学
- ・第二期第6回 平成22年12月16日 鹿児島大学

さらに平成22年11月27日には産学連携学会・秋季シンポジウムを、早稲田大学・理工学部を会場に開催した。ここでは、知財学会・ベンチャー学会・研究技術計画学会・地域活性学会の4学会と共同し、イノベーション・プロセスあるいはイノベーション・リテラシーの研究を共同あるいは分担して推進する5つの学会群として、様々な問題を議論し、また協力方法を考察し構築した。第1番目の共同事業として、研究内容を表すキーワード抽出を5学会連携作業として行い、これを『イノベーション・リテラシー』という総合概念にまとめ整理した。この成果を活かすため科学研究費補助金『系、分部、分科、細目表』への反映を求めて、知財学会、ベンチャー学会、研究技術計画学会、地域活性学会、産学連携学会と連名して、学術振興会、文部科学省担当部局に対して要望書を提出し、恒久表および時限休表への反映を要望した。

産学連携活動の成果から生み出される知的財産についても研究を深め、知財学会活動を支援して、平成22年6月19・20日に第8回大会（東京工科大学）に参加し、座長等を務めた。また11月22日には、秋季シンポジウム（東京・TEPIA ホール）に参加した。

またデザイン・芸術系の関連学会として、先ず日本建築学会については平成21年9

月9～11日（関連行事も含む）に、富山大学にて行われた2010年度日本建築学会大会（北陸）学術講演会に参加し、シンポジウム等での意見発表を行った。また、計画基礎系運営委員会および情報設計委員会の幹事として、多くの研究活動の企画・運営を行った。

日本インテリア学会については、理事・広報委員長として日頃の学会活動推進に努めると共に、平成22年10月23～24日に大阪樟蔭大学にて行われた2010年度大会に参加し、シンポジウム等での意見発表を行った。関連してインテリアコーディネーター試験事業を推進し、インテリア文化の普及と資格者・職能者の資質向上に貢献した。福岡インテリアコーディネーター協会会長および九州インテリアコーディネーター協会協議会会長としても、上記の実現に尽力した。また環境設計学会会長として、円滑な活動の推進に努めた。

○学会活動へのその他の貢献

「産学連携学」の建設とデザイン学との融合および発展についても着実に進行しており、その象徴的な問題の一つとして、科学研究費補助金 系・分科・細目表に、「産学連携・知的財産（学）」を項目名として入れるべく、さまざまな努力を継続した。引き続き担当機関である学術振興会と連携しつつ、5年に1度の表改訂に向けて手続きと要望を行った。

また各地の商工関係者の中でも、デザイン知財の問題が取り上げられるなど、デザイン関連の知的財産研究あるいは知的生産としての産学連携に関する研究に、着実な進展成果を見た。関連して、福岡県中小企業家同友会産学連携部会 FAST と連携し、デザイン産業振興論・産学連携によるデザイン知的財産創出・産学連携知的財産原論、等々を講演した。またデザイン関連研究の紹介の一環として、本センター・デザイン総合部門の見学および説明会、さらには新博多駅見学会（2回）および報告会も実施した。

○国立大学法人としての対外的活動

第23回国立大学法人産学連携センター・共同研究センター専任教員会議開催（8月26～27日／佐賀大学）に参加し、主として各大学の産学連携組織再編・改組問題、および第4世代の産学連携活動について講演した。

産学連携センター客員教授による KASTEC セミナー等を実施し、学外からも多くの空間研究者・視覚情報研究者・デザイン関係者・知的財産関係者に参加聴講してもらい、研究成果の社会還元と、有効な研究交流を行った。

○教育関連活動

また全学的な産学連携・知的財産への理解を推進するため、特に全大学院共通教育等の枠組みを生かして講義を実施した。先ず4月より、九州大学大学院共通科目「産学連携知的財産特論1・2」を実施し、「分野横断・分野融合」総合推進学としての「産学連携学」の大学教育への還元、知の横断的把握・知の相対化を考える学としての「産学連携・知的財産論」を、文学部から医学部まで幅広い院生を対象に講義・演習し、

大学教育への還元を行った（箱崎キャンパス・伊都キャンパス・筑紫キャンパス・大橋キャンパス）。また、システム情報科学研究院と連携し、その学部3年次を対象に、知的財産権論、知的生産方法論としての産学連携論を講義した（伊都キャンパス）。

- 高等教育機構・大学院共通講座
（前期）「産学連携・知的財産特論－1、2」の開講（箱崎等4キャンパス、5～7月）
（後期）「産学連携・知的財産特論－1」の開講（大橋キャンパス、10～11月）
- システム情報科学部「技術者倫理とマネジメント」講座の開講（4～5月）

○出版関連活動

主に建築デザイン系の学生大学院生のために、日本建築学会刊行物として出版社と共同し、複数の大学と共同して、『建築設計のための行く見る測る考える－フィールドワークの進め方』を企画・執筆し、設計・デザイン系の教育に対する社会貢献を行った。平成23年10月に発刊予定である。また九州大学産学連携センター・デザイン総合部門が主体となって行った、市民建築文化展 in 九州国立博物館の活動成果をまとめた。今後、各関連団体・機関に、無料配布の予定である。

産学連携学会刊行物としては、第1版内容を企画提案した「産学連携入門」（当学会認定講習および科学技術振興機構研修に使用）について、第2版の企画出版を完了し、各関連機関への配布・頒布を継続中である。また学会単独刊行物として、「特定非営利活動法人・産学連携学会 認定講習テキスト」（現状は15講座分）をまとめて、関連各機関に配布した。また「特定非営利活動法人・産学連携学会 第二期認定講習テキスト」（現状は4講座分）を作成し、配布準備中である。

独立行政法人・国立大学財務・経営センターと共同し、「国立大学財務・経営ハンドブック 第3集」の出版を完了し、関連機関への配布を行った。

○普及啓蒙活動

平成21年4月より行って来た中小企業経営者への「産学連携・知的財産活動の普及啓蒙・教育活動－中小企業経営開発講座」／「開物成務塾－中小企業経営・開発革新講座」の活動を継続した。毎月2テーマを選び、「新製品・新事業開発」のワークショップ、および、「産学連携・知的財産学」講義と「新開発のための思考操作法・発想法」講義を行っている。また2カ月に1回は実行委員会を開催し、運営への希望や個別指導・相談希望の整理をしつつ、運営への反映を図っている。これは1年に1回、市民公開講座として公開している。また関連する内容を、対外的に広報・講演する活動も継続している。

○社会発信活動

共同研究データベース「九州大学・日本芸術文化資料データベース創生事業」（奨学寄付金0911000310／科学研究費・研究成果公開促進費データベース・平成20年度分採択・課題番号208002の継続作業を含む）の共同研究・公開資料作成・サーバーによ

る資料公開を継続した（サーバー公開／平成21年11月末）

また独立行政法人・九州国立博物館と共同し、建築が様々な文化の容れ物であり、それ自体が人類の主要な技術と文化の粋であるとして捉えた、建築の技術と文化を表現する建築模型展『市民建築文化展』を、九州国立博物館エントランスロビーで開催した。3人の客員教授と1人の招待講師、および2人の地元講師に講演とワークショップをお願いし、6日間で4800人の参観があり、特に建築を専門としない一般社会への発信として効果を挙げた。

4.2.3 平成23年度活動方針

基本的に、平成22年度の活動を継続発展する。

具体的な項目として、産学連携を推進するための各種セミナー等の主催、地域デザイン関連産業との協調および支援、産学連携関連機関に対する施設提供と支援、産学連携プロジェクト計画の企画・推進、産学連携教育の実施、等である。